

1 部会活動

☑部会開催回数および開催日

- ・12回開催(4/27,5/25,6/22,7/27,8/24,9/28,10/26,11/30,12/28,1/25,2/22,3/29)

☑参加機関

- ・各地域部会(中央北、東部、南西)からの代表者
地域サポートセンター仲よし 相談支援センターあしすと
救護施設 浦安荘 岡山南障がい者相談支援センター
- ・岡山市基幹相談支援センター
- ・オブザーバー 岡山市障害福祉課



2 活動の内容

☑地域課題の抽出～整理～調査、研究を適宜実施

☑課題解決に向けた方策の検討

☑社会資源の開発や改善に向けた提言等

☑他部会、WGとの連携

- ・地域部会等との連携

☑サービスの質向上に向けた研修会の企画(強度行動障害者への支援)



3 強度行動障害者への支援に関するアンケート調査の実施

○アンケートの方式

- ・Googleフォームを使用した意見抽出
- ・協力依頼文にQRコードを掲載 回答者がログインして回答

○アンケートの期間

- ・令和3年8月3日～同20日まで(期間外回答も受理)

○回答機関数

- ・79件(期間外回答5件含む)

○アンケート発送数

- ・164件 (同一事業所で複数事業を行っている所であっても送付は1通とした)

○対象事業所数

対象事業所(207事業所)		
生活介護51	計画相談61	行動援護13
共同生活援助33	短期入所35	施設入所支援14

➡アンケート結果は岡山市障害者自立支援協議会ホームページに掲載し公表



4 研修会の開催

(つなぐ・つながる支援の輪Vol.6～強度行動障害の現在地と未来予想図)

強度行動障害とされる方への支援を実施している地域の支援機関の現状を取り上げ、ご本人やご家族が地域社会において安心して暮らすことへの実現に向け、支援体制構築の一助になれるよう本研修会を企画・実施。

- ①開催日 令和3年11月13日(土)
- ②場所 ウェルポートなださき かしの木ホール
- ③対象者 福祉施設関係、相談支援事業所、医療関係機関、学校関係
その他関心のある方
- ④登壇者 障害者支援事業者 岡山県精神科医療センター
おかやま発達障害者支援センター
- ⑤参加状況 126名
- ⑥内容 ○アンケート報告
○基調講演：「強度行動障害者の困難をともに解決したい」
岡山県精神科医療センター 院長 来住由樹 氏
○シンポジウム：強度行動障害者の生活を支えよう・考えよう
3事業者より実践報告を交えた課題と今後の展望について

J-707LL

2013年より強度行動障害のある方に対して、適切な支援、知識と技能の習得を目的に「強度行動障害支援者養成研修」が始まりました。しかし、地域の積極的な受け入れは十分とは言えず、その課題は、精神科病院等の医療へ委ねられている現実があります。この研修会では、その現状に目を向け、課題について医療と福祉による積極的な意見交換から連携を目指し、強度行動障害のある方が地域で安心して暮らせるための未来を考える場となればと考えています。



～つなぐ・つながる支援の輪 Vol.6～

強度行動障害の現在地と未来予想図

日時 2021 11.13 SAT 10:00 ~ 12:30

会場 ウェルポートなださき
岡山市南区片岡 159-1

講師 岡山県精神科医療センター院長
来住 由樹氏

定員 100名

シンポジウム『強度行動障害の方の暮らしを支えよう・考えよう』

【登壇者】

○赤松 基史 氏（生活介護事業所 四ツ葉会ティール） ○河本 章宏 氏（共同生活援助事業所 泉学園）
○小田桐 祐 氏（行動援護事業所 ヘルパーライト） ○新谷 義和 氏（おがやま発達障害者支援センター）

【助言者】来住 由樹 氏（岡山県精神科医療センター院長）

【コーディネーター】村上 真（岡山市障害者基幹相談支援センター所長）

■主催：岡山市障害者自立支援協議会 ■共催：岡山市障害者基幹相談支援センター

お問い合わせ先・お申込み方法は裏面をご覧ください



5 参加者の声(アンケート抜粋)～シンポジウムについて～

○豪華なパネリストの方々の実体験に基づくお話を聞けて、大変勉強になりました。強度行動障害の方への支援について、具体的にいつ、どのように、何をしたらよいのかというヒントをたくさんもらえた気がします。

○もっと時間があれば他の事業所の様子も聞きたかったし、成功例だけではなく失敗例なども聞きたかったです。

○実際に支援者として強度行動障害の方々への関りを持つ立場での講演は、分かりやすく尚且つ今後の支援に役立てる事ができると感じた。

○それぞれの現場の様子が分かりやすく、学校や施設間でノウハウを移行していくことや施設が孤立しないよう連携していくことの大切さを感じました。

○人でなく環境で動けるようにという言葉が印象的でした。心にとめて職務に当たりたいと思います。

○強度行動障害支援者養成研修のフォローアップとして、法人を超えた強度行動障害実習、実習受け入れが行なえる仕組みができればと思う。

○本人が分かって動けるという支援はとても大切だと思いましたし、一人で過ごせるほか活動を在学中に一つでも増やせたらと思いました。

○それぞれの事業所で、利用者のよりよい生活のために工夫されているのがよくわかりました。学校でしておいた方がよいことや身につけておきたい力のヒントもいただきました。

6 課題に関して～主な検討事項として(抜粋)

○新型コロナウイルス感染に関する福祉サービスの状況把握。

⇒市内の感染状況により、適宜サービスの動向を確認共有した。

○児童養護施設に措置中の障害児の卒業後の進路について。

⇒特に居住の場についての進路検討には関係機関の連携が必要。

○地域生活支援事業と障害者総合支援法の日中系サービスの併用希望について

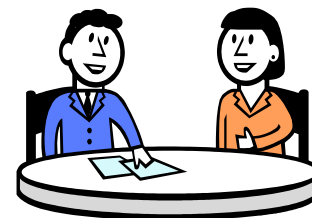
⇒要望がどのような状況で、どのくらいあるか等、実態把握を行なう必要あり。

○ヘルパー利用時の駐車場代を利用者本人が負担している事例報告有。

⇒事業所負担になることを集団指導で改めて周知して頂くよう働きかける。

○発達障害への対応、複合課題、適正利用、余暇支援等の課題も継続している。

⇒課題を焦点化しながら、具体的方策につながるよう取り組む。



7 次年度に向けた福祉サービス部会の方向性

☑地域から出てくる課題の整理、検討

☑課題検討後のフィードバック

☑社会資源開発や改善、制度上の新サービスへのあり方を検討

☑調査や検証機能の充実

